

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	医療通訳応用Ⅱ		（TCM220）
講義名（コード）	TCM_医療通訳応用Ⅱ		（TCM220）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	日中医療通訳コース	単位数	4
授業担当者	医信株式会社	時間数	60
成績評価教員	医信株式会社	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	医療通訳における必要な関連知識や語彙、能力と技能を持ち、医療現場で実践可能にする。医療機関で健診のお客様の医療通訳が行えるようになる。
全体的内容と概要	・4回の現場ロールプレイ授業を通じて、健診医療通訳の基本知識と知識スキルを習得 ・代表的な医療機関の健診結果レポートを例として、翻訳する際の注意事項などを説明 健診結果レポートから厳選した内容を翻訳 ・外来一般診察、検査の手続きや流れ、注意事項の説明
授業時間外の学修	・健診でよく出る医療専門用語を暗記 ・血液検査用語、よく使う薬剤用語（中国語・日本語）
履修上の注意事項等	授業は予習・復習をしていることを前提に進めるため、必ず自主学習を行うこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	通訳者に対する基本素質要求ルールを守る 各医療機関の特徴概要を理解する	医療通訳者に必要な基準、マナー、基本論理を講ずる。 癌研有明病院、慶応義塾大学病院、国立国際医療研究病院、日本医大など各病院の人間ドックセンターの検査項目の特徴を説明する。
2	問診と健診問診票の記入ができる	各医療機関の問診表の特徴と記入方法の説明 問診表を配布し、生徒が自分で記入するようにする。
3	検査項目の目的、検査方法、注意事項を理解する	検査のすべて（各検査の概要） 上腹部超音波検査、PETCT、MRI検査、胃カメラ検査
4	健診の医療通訳の基本スキルができる	現場の模擬体験、ロールプレイで練習
5	健診の医療通訳の基本スキルができる	現場の模擬体験、ロールプレイで練習
6	健診の医療通訳の基本スキルができる	現場の模擬体験、ロールプレイで練習
7	健診の医療通訳の基本スキルができる	現場の模擬体験、ロールプレイで練習
8	現場におけるトラブル発生時の対応 健診レポート翻訳の基本スキルができる	具体的な例を上げ、医療通訳者の仕事範囲と責任範囲を指定することで、なるべく現場で発生可能なトラブルを避ける 健診報告書に、よく使う医療単語/用語及び文例集の説明
9	健診レポート翻訳の基本スキルができる	健診レポート翻訳練習
10	健診レポート翻訳の基本スキルができる	健診レポート翻訳練習
11	健診レポート翻訳の基本スキルができる	健診レポート翻訳練習
12	中国人が来日治療の現状を理解する外来 医療通訳の基本スキルができる	中国人が来日して受診する主な疾患の診察、検査方法、注意事項などの説明
13	日本の先端医療を理解する 期末試験の範囲を理解する	中国人よく知りたい日本先端医療の説明 授業の主な内容を復習する
14	期末試験	筆記テスト と 口頭試験
15	返却と解説	テストの結果を解説する

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	医信編集によるオリジナルテキスト
参考文献・資料等	
備考	